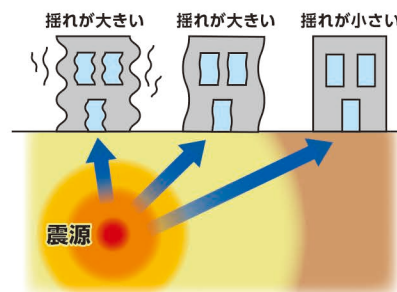


マグニチュード(地震の規模の大きさ)

マグニチュードは、地震そのものの規模(大きさ)を表す数値のことをいいます。一般的にはマグニチュードが小さな地震でも、震源が近ければ大きく揺れ、震度は大きくなることがあります。逆にマグニチュードが大きな地震でも震源からの距離が遠いとあまり揺れず、震度は小さくなります。



震度(地震の揺れの強さ)

※震度0〜3は省略しています

震度 4

ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、歩いて揺れを感じる。



震度 5弱

大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。



震度 5強

大半の人が物につかまらなと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。



震度 6弱

立っていることが困難になる。耐震性の低い住宅では、倒壊することもある。



震度 6強

立っていられなくなり、這わないと動くことができない。揺れに翻弄され、飛ばされることもある。耐震性の低い住宅では倒れるものが増える。

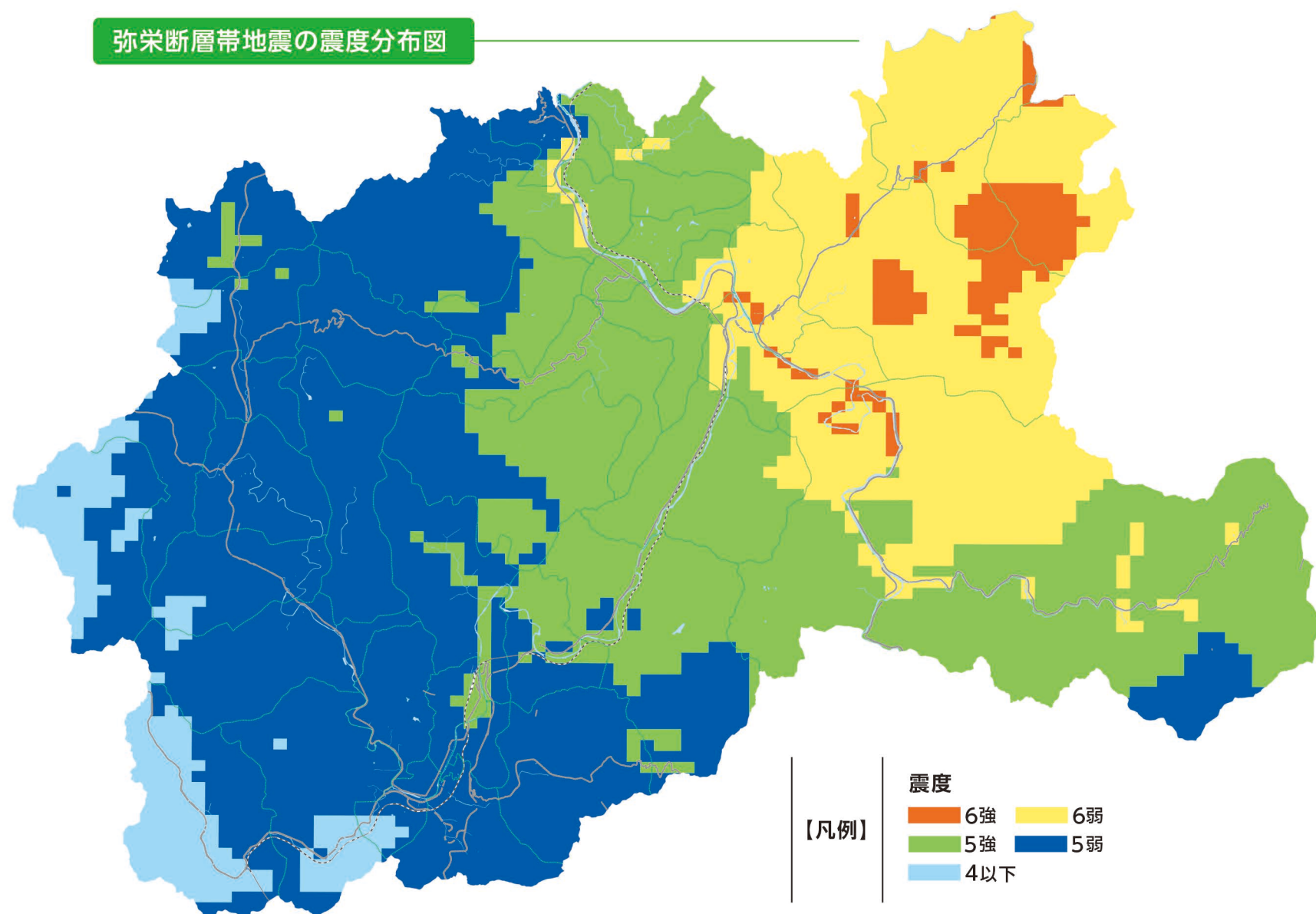


震度 7

耐震性の高い建物でも傾くことがある。大きな地割れや地滑りなど土砂災害が発生することもある。



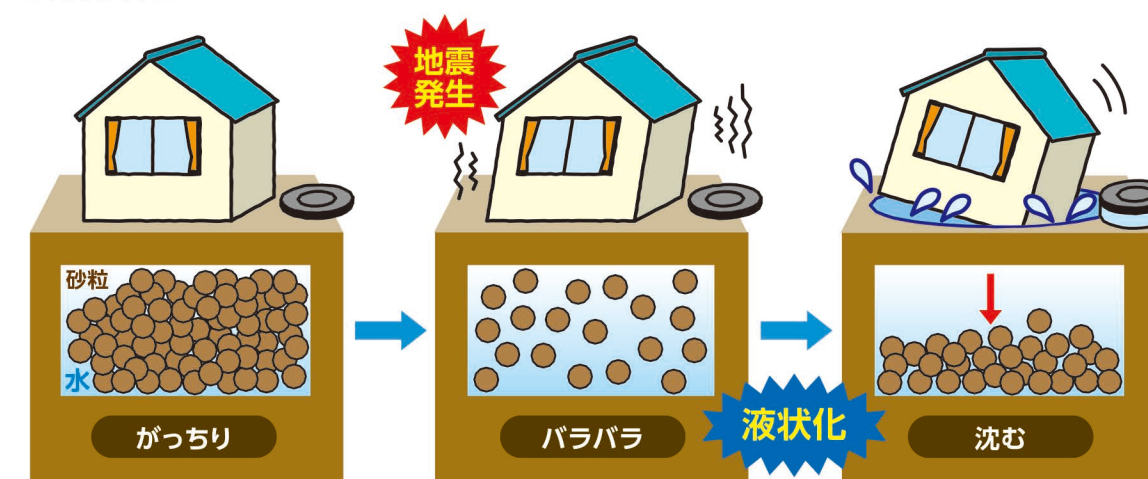
弥栄断層帯地震の震度分布図



液状化現象とは…

液状化とは、地震が発生して地盤が強い衝撃を受けると、今まで互いに接して支えあっていた土の粒子がバラバラになり、地盤全体がドロドロの液体のような状態になる現象のことをいいます。液状化が発生すると、地盤から水が噴き出したり、また、それまで安定していた地盤が急に柔らかくなるため、その上に立っていた建物が沈んだり(傾いたり)、地中に埋まっていたマンホールや埋設管が浮かんできたり、地面全体が低い方へ流れ出すといった現象が発生します。

●液状化のメカニズム



普段は土の粒が噛み合うことで、地盤の上にある建物などの荷重を支え、地盤が安定しています。

土の粒は噛み合わせが外れてバラバラになり、水の中に浮いたような状態になります。この状態が「液状化」です。

地盤が「液体」になり不安定になるため、建物などの重いものは沈み、マンホールなどの軽いものは浮き上がります。

液状化による被害は、ただちに人命に関わることは稀です。しかし、過去の液状化被害を振り返ると、噴水・噴砂の発生、戸建て住宅の沈下や傾斜、道路面の変形、ライフライン施設の被害等、液状化による被害が地震後の生活に及ぼす影響は多大にして多種多様であり、これらが複合的に発生することで影響期間は長期に及ぶことになります。

●液状化被害リスクを確認しよう！

「液状化危険度マップ」を確認して、自分の住んでいる地区の液状化被害の発生の可能性を確認しよう。

弥栄断層帯地震の液状化分布図

